

## 博物館と学校教育との連携 IV

－「総合的な学習の時間」等における出前講座の実践報告－

岡田 知己

## はじめに

学習指導要領に、「博物館の利用」が初めて示されたのは、平成元年版の小学校及び中学校の社会科である。その後平成10年12月に告示された現行の学習指導要領や、平成20年3月28日に告示された新学習指導要領にも引き続き継承されている。また、現行の学習指導要領からはいわゆる「総合的な学習の時間」が創設されたが、その学習活動を行うに当たっての配慮に、「学校図書館の活用、他の学校との連携、公民館、図書館、博物館等の社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携、地域の教材や学習環境の積極的な活用などについて工夫すること。」とあり、学校が博物館等を積極的に活用することで、学習の成果をさらに高めていくことが求められている。

平成3年の開館以来、当館へも多くの学校教育機関が訪れている。平成19年度の学校教育機関の入館状況は5309人（67校）であった。（少子化による生徒数及び学校数の減少のため、入館者状況の過年度比較

の評価はむずかしいが、直近3年間に限っての比較では減少傾向にある。）立山博物館では、これまでも、ジュニアワークシートや見学の手引き『「たてはく」へ行こう』を事前に配布し、遠足や校外学習等で訪れる学校での事前学習に利用してもらっている。また、こちらから学校へ赴くジュニアミュージアム講座も実施してきた。（研究紀要 第3・4・5号参照）その成果もあって、子供達がただ一方的に見学し、博物館をあとにするようなことはほとんどない。特に、小中高等学校の団体が訪れた際には学芸課の職員による解説を必ず実施している。

平成19年度は、博物館職員による出前講座を4回実施した。その目的は、「総合的な学習の時間」や「立山登山」の事前学習であったが、「立山曼荼羅」を教材とした講座に対する子供達の反応は概ね良好なものであった。

以下、平成19年度の出前講座実践報告である。

## 1. 平成19年度における小学校との連携

## 実践① 立山町立立山中央小学校

期 日 平成19年7月4日（水）  
場 所 立山中央小学校2階マルチパーパス  
対 象 第6学年児童127名  
時 間 午後2時～3時30分  
区 分 総合的な学習の時間  
テーマ「TATEYAMA～見つめよう！  
考えよう！挑戦しよう！」  
内 容 立山登山の事前学習もかねた立山の歴史  
についての学習

## 実践② 立山町立立山小学校

期 日 平成19年7月5日（木）  
場 所 立山小学校ランチルーム  
対 象 第5学年児童20名、第6学年児童23名、  
保護者  
時 間 午前10時45分～12時  
区 分 P T A主催事業  
立山登山の事前学習会として実施  
内 容 立山の自然と歴史についての学習

**実践③ 立山町立立山芦峯小学校**

期 日 平成19年11月16日（金）  
 場 所 立山博物館展示館、芦峯寺雄山神社、教  
 算坊、閻魔堂など  
 対 象 第3学年児童3名、第4学年児童5名  
 （3・4年生複式学級）  
 時 間 午後1時30分～3時30分  
 区 分 総合的な学習の時間  
 テーマ「芦峯寺の古い物調べ」  
 内 容 地元芦峯寺地内にある雄山神社、博物館、  
 閻魔堂、教算坊などを学芸員と一緒に周  
 り、各々が知りたいことについて学芸員  
 にインタビューするもの

**実践④ 富山市立大久保小学校**

期 日 平成20年1月16日（水）  
 対 象 第5学年児童61名  
 場 所 国立立山青少年自然の家  
 時 間 午後7時～8時  
 区 分 特別活動  
 宿泊学習プログラムの一つとして実施  
 内 容 来年度に予定している立山登山に向けて  
 の事前学習もかねて、立山に関する歴史  
 と文化についての学習

**2. 出前講座用の教材「立山の歴史」について**

出前講座（実践①、②、④）用として、パワーポイ  
 ントによるスライドショー教材を作成した。

基本的な構成については、平成14年度立山博物館  
 特別企画展「探検！立山曼荼羅 親子で親しむ立山開  
 山伝説」の展示解説書及びDVD「探検！立山曼荼羅」  
 を参考とした。1時間～1時間30分扱いの計画で作  
 成したが、子ども達の反応もみながら、その都度適宜  
 内容を変更した。実際にこの教材のすべての項目を説  
 明していくと2時間程度必要になると考えられるため、  
 今後内容をさらに精選する必要がある。

その他にも、立山曼荼羅の実寸大レプリカ2本

（「立山曼荼羅 大仙坊A本」「立山曼荼羅 佐伯氏本」）  
 や、「立山曼荼羅大仙坊A本」をコピーしたプリント  
 などを使用した。

「出前講座指導計画」については、第1案と第2案  
 を作成した。第1案は、平成19年度における実際の  
 取り組みのものである。第2案は、小学校高学年にお  
 ける45分授業×2時間を想定して作成した。出前講  
 座用として作成した教材であるが、現場の教員が「総  
 合的な学習の時間」又は立山登山の事前研修などに気  
 軽に利用できるものになるよう、今後も改良してい  
 きたい。

## 【出前講座指導計画 第1案】

今年度実施した出前講座及び事前学習用の指導案

番号	学習項目	主な学習内容と留意点	時間
導入	1 表題		20分
	2 旧立山頂上社殿	江戸時代末の1860年に建てられた旧社殿である	
	3 称名滝① 航空写真		
	4 称名滝② 称名滝の概要	落差日本一である	
	5 室堂から見た立山本峰①	室堂平の標高は2450m	
	6 室堂から見た立山本峰②	立山本峰を説明（雄山・大汝山・富士の折立）	
	7 五の越にある頂上社殿の社務所		
	8 三角点「立山」①	三角点について簡潔に説明	
	9 三角点「立山」②	明治28年に設置された一等三角点である	
	10 現在の立山頂上社殿	五の越からさらに登ったところに社殿がある	
	11 峰本社	現在の社殿は平成8年に遷宮された	
	12 神主さん	今も夏季には神主さんが常駐している	
	13 大汝山からみた雄山	天に一番近い場所に社殿が建っている	
	14 大汝山頂上	大汝山が富山県及び日本海側最高地点（3015m）	
	15 日本三霊山の一つである立山	八尾おわら節の一節を紹介	
	16 質問「立山はなぜ有名だったのか？」	答え「それは地獄のおかげ」地獄谷の景観を強調する	
	17 鍛冶屋地獄		
	18 百姓地獄	他の山にはない特異な景観であり、立山には百を越える地獄があると伝えられた	
	19 地獄谷遊歩道		
展開①	第1章「山と人のかかわり」		15分
	(1) 山は日本人の生活を支えてきた場所	山・海・里の民にとって山とは何かを考えさせる	
	(2) 山は神のおりたつ場所	万葉集にみる立山の名称と大伴家持についての説明	
	(3) 山は、死者の霊魂がすむ場所	今昔物語集に語られる立山地獄の説明	
	(4) 山は、修行によって生まれかわる場所	成人儀礼としての立山登山と女人禁制についての説明	
作業	☆ 立山曼荼羅にみる不思議な生き物	事前に立山曼荼羅レプリカを展示しておき、何人かにその中から探させる。それ以外の子ども達には事前に配布したプリントの中から探す。	15分
	・ 立山曼荼羅の説明 ・ 曼荼羅にでてくる生き物探し		
展開②	第2章「立山開山伝説」	立山曼荼羅レプリカを使って開山伝説を「絵解き」する又はDVD「探検！立山曼荼羅」の「立山開山伝説」を視聴	15分
	立山開山伝説の謎にせまる！	開山の時期と人物及び変身の意味についての説明	
展開③	第3章「立山まいり」		15分
	「江戸時代の宿坊」	宿坊の様子から江戸時代の立山登山を説明	
	「まずは室堂まで」	立山曼荼羅レプリカを使いクイズ形式で、立山登山や地獄の話及び山々の説明を行う	
	「地獄谷めぐり（地獄めぐり）」	地獄についても、クイズ形式で説明する。時間があれば、DVD「探検！立山曼荼羅」の「立山地獄」を視聴	
	「立山めぐり」	立山連峰のそれぞれの山を説明	
	トピックス 映画「剣岳 点の記」ロケ		
まとめ	72 第4章「成人儀礼としての立山登山」	立山に登ることの意義を一人一人考えさせる 立山登山に向けて、自分のめあてを書かせる	10分
おまけ	73 小学校登山の開始	富山県ではじめて行われた小学校の立山登山と女学校登山の様子を提示。昔は、先生はスーツにネクタイ、女子生徒も制服にスカートで立山に登っていたことなど。	
	76 女学校登山		

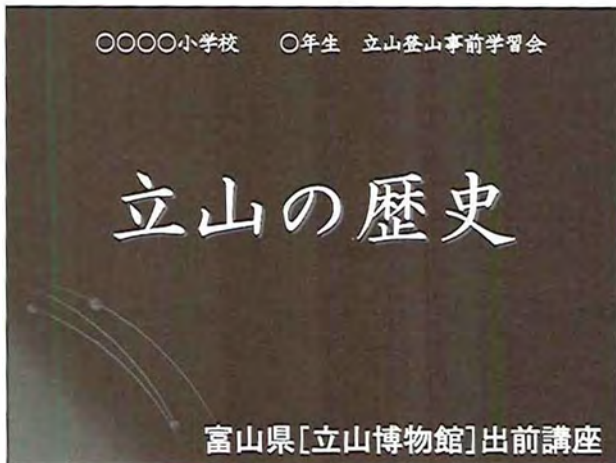


【出前講座指導計画 第2案】

小学校高学年の45分授業×2を想定した指導案

番号	学習項目	主な学習内容と留意点	時間
導入	1 表題		15分
	2 旧立山頂上社殿	江戸時代末の1860年に建てられた旧社殿である	
	3 称名滝① 航空写真		
	4 称名滝② 称名滝の概要	落差日本一である	
	5 室堂から見た立山本峰①	室堂平の標高は2450m	
	6 室堂から見た立山本峰②	立山本峰を説明（雄山・大汝山・富士の折立）	
	7 五の越にある頂上社殿の社務所		
	8 三角点「立山」①	三角点について簡潔に説明	
	9 三角点「立山」②	明治28年に設置された一等三角点である	
	10 現在の立山頂上社殿	五の越からさらに登ったところに社殿がある	
	11 峰本社	現在の社殿は平成8年に遷宮された	
	12 神主さん	今も夏季には神主さんが常駐している	
	13 大汝山からみた雄山	天に一番近い場所に社殿が建っている	
	14 大汝山頂上	大汝山が富山県及び日本海側最高地点（3015m）	
	15 日本三霊山の一つである立山	八尾おわら節の一節を紹介	
	16 質問「立山はなぜ有名だったのか？」	答え「それは地獄のおかげ」地獄谷の景観を強調する	
	17 鍛冶屋地獄		
	18 百姓地獄	他の山にはない特異な景観であり、立山には百を越える地獄があると伝えられた	
	19 地獄谷遊歩道		
展開①	第1章「山と人、人と自然とのかかわり」		15分
	(1) 山は日本人の生活を支えてきた場所	山・海・里の民にとって山とは何かを考えさせる	
	(2) 山は神のおりたつ場所	万葉集にみる立山の名称と大伴家持についての説明	
	(3) 山は、死者の霊魂がすむ場所	今昔物語集に語られる立山地獄の説明	
	(4) 山は、修行によって生まれかわる場所	成人儀礼としての立山登山と女人禁制についての説明	
作業	☆ 立山曼茶羅にみる不思議な生き物	事前に立山曼茶羅レプリカを展示しておき、何人かにその中から探させる。それ以外の子ども達には事前に配布したプリントの中から探す。	15分
	・ 立山曼茶羅の説明		
	・ 曼茶羅にでてくる生き物探し		
休 憩			
展開②	第2章「江戸時代の立山信仰」		15分
	「江戸時代の宿坊」	宿坊の様子から江戸時代の立山登山を説明	
	「まずは室堂まで」	立山曼茶羅レプリカを使いクイズ形式で、立山登山や地獄の話及び山々の説明を行う	
	「地獄谷めぐり（地獄めぐり）」	地獄についても、クイズ形式で説明する。時間があれば、DVD「探検！立山曼茶羅」の「立山地獄」を視聴	
	「立山めぐり」	立山連峰のそれぞれの山を説明	
展開③	第3章「立山開山伝説」	立山曼茶羅レプリカを使って開山伝説を「絵解き」する 又はDVD「探検！立山曼茶羅」の「立山開山伝説」を視聴	15分
	立山開山伝説の謎にせまる！	開山の時期と人物及び変身の意味についての説明	
展開④	第4章「成人儀礼としての立山登山」	立山に登ることの意義を一人一人考えさせる 立山登山に向けて、自分のめあてを書かせる	10分
まとめ	第5章「学校登山」	富山県ではじめて行われた小学校の立山登山と女学校登山の様子を提示。昔は、先生はスーツにネクタイ、女子生徒も制服にスカートで立山に登っていたことなど。	5分
	小学校登山の開始 女学校登山		

### 3. スライド一覧



〔1〕



〔2〕



〔3〕



〔4〕



〔5〕



〔6〕





〔7〕



〔8〕



〔9〕



〔10〕



〔11〕



〔12〕



〔13〕



〔14〕

### はじめに

- 立山は、富士山・白山とともに日本三霊山のひとつとして知られています。

「～越中で立山、加賀では白山、  
駿河の富士山日本一だよ～」  
(八尾おわら節より)

〔15〕

- わたしたちが「立山」の言葉で想像するものは、立山の雄大な自然でしょう。しかし、立山が日本の歴史のなかで有名な山であり続けることができたのは、実は山の中にあるとても恐ろしい

## 地獄

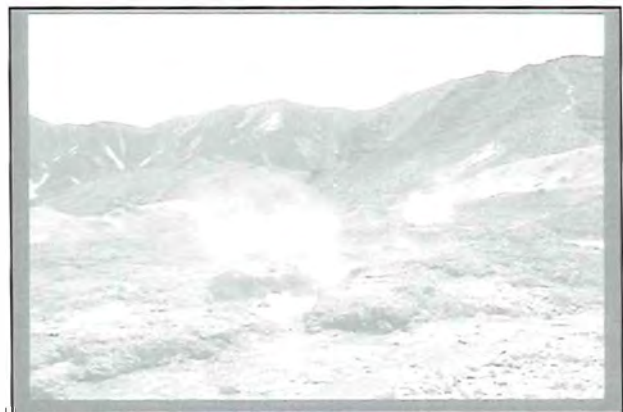
のおかげだったのです。

〔16〕



鍛冶屋地獄(かじやじごく)

〔17〕



百姓地獄(ひやくしょうじごく)

〔18〕





[19]

第1章「山と人のかかわり」  
(1) 山は日本人の生活を支えてきた場所

日本は、国土の4分の3が森や山  
 ↓  
 日本人は、山とともに生きてきた。

[20]

<山の民>

山の民は、山の神が、山を支配していると考え、山の神をおこらせないように気をつけてきました。

↓

女性は山に登っては行けない  
 山のなかで口笛や鼻歌はだめ など

[21]

<海の民>

海の民は、海上から山を見て位置を知り、天候を予測しました。

海の民は、その山の神が自分たちを見守っていると信じてきました。

[22]

<里の民>

里の民は、飲み水や水田の水を、山から流れてくる川にたよっていたので、山の神は、水の神や田の神でもあると信じていました。

里の民は、春には、豊作を願って山の神をむかえる祭りをを行い、秋には感謝をこめて山の神を送る祭りを行うようになりました。

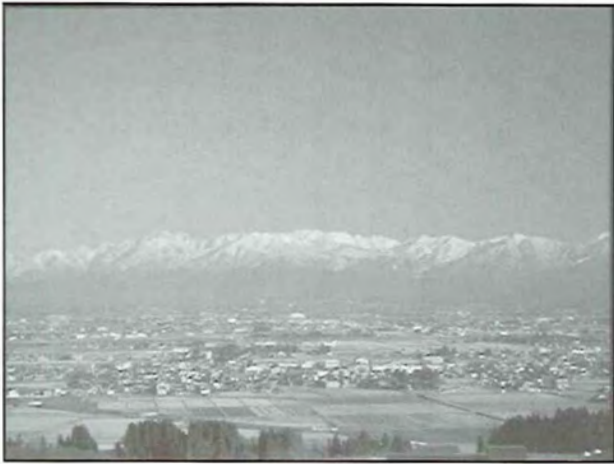
[23]

(2) 山は神のおりたつ場所

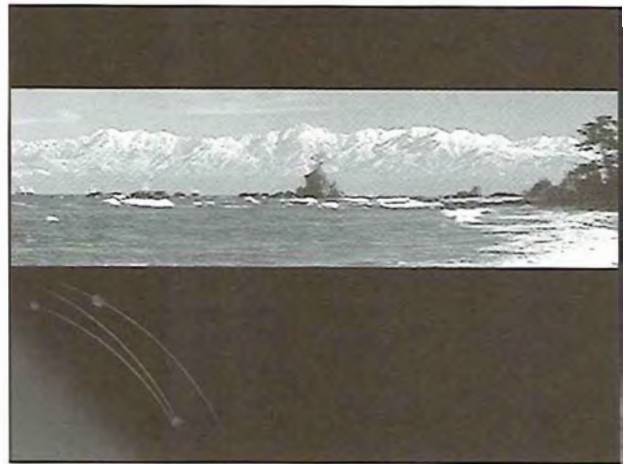
- 山は天上の神が地上におりてくるための道であり、また神がすみつく場所だと思われていたのです。
- 山は、信仰の対象になり、特に「富士山」や「白山」そして「立山」や「剣岳」は聖地となりました。

[24]





[25]



[26]



[27]

越中国司 大伴家持  
おおとものやかもち



[28]

原文(万葉仮名)

多知夜麻尔  
布里於家流由伎乎  
登己奈都尔  
見礼等母安可受  
加武賀良奈良之

[29]

仮名

たちやまに  
ふりおけるゆきを  
とこなつに  
みれどもあかず  
かむからならし

[30]

多知夜麻尔

布里於家流由伎乎 登己奈都尔  
見礼等母安可受 加武賀良奈良之

たちやまに

ふりおけるゆきを とこなつに  
みれどもあかず かむからならし

[31]

訓読

立山に降り置ける雪を常夏に  
見れども飽かず神からならし

- 立山に降りつもっている雪を、夏の間中見ても見飽きることがない、これは立山が神の山だからだろう

[32]

- 天平19(747)年4月27日  
越中国司(いまの県知事)  
大伴家持は、立山を神のすむ  
山とたたえました。

- このように奈良時代の頃の立山は、  
神々しい山で、遠くからながめてお  
がむ山でした。

[33]

### (3)山は、死者の靈魂がすむ場所

- 日本人は昔から、人は死んで「あの世」へ行った  
あとも、目に見えない不思議な力を持ち続けると信  
じてきました。
- 日本人の多くは、「あの世」は山のかなたにあっ  
て、先祖の靈が山の上から子孫を見守っていると  
信じてきました。その先祖の靈は、お盆と正月には  
子孫の近くにやってくると信じられており、それでお  
盆と正月に墓参りやお祭りをします。

[34]

- 仏教という外国の教えが日本に伝わってきま  
した。(538年または552年)その仏教では、  
人は死んだあと生前の行いによって「地獄」  
や「極楽」に行くといわれています。
- 日本では、その地獄や極楽は山にあると信じ  
られました。そして、地獄に落ちた先祖の靈  
をなぐさめるために山へお参りに行くようにな  
りました。

[35]

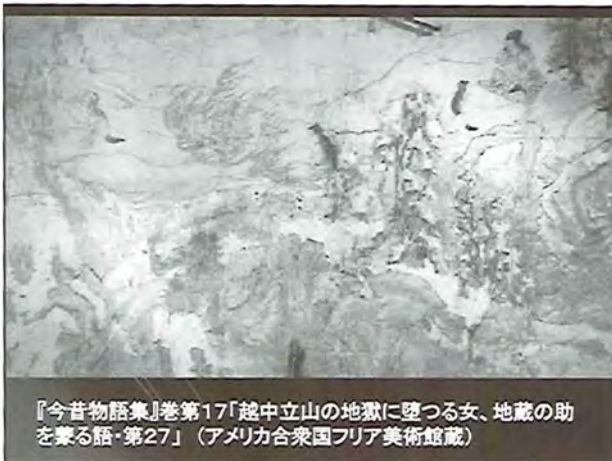
- 平安時代の仏教説話集「今昔物語集」には

「日本国の人、罪をつくりて  
多くこの立山の地獄におつ  
といへり」

とあり、立山は「地獄」の山として特に都の人々に  
知られていました。

[36]





『今昔物語集』巻第17「越中立山の地獄に墮つる女、地藏の助を蒙る話・第27」(アメリカ合衆国フリア美術館蔵)

[37]



[38]



[39]



[40]



[41]

● 修行僧延好が立山地獄に墮ちた女性の亡霊の依頼を受け、その京の七条の生家を訪ねて、遺族に地藏菩薩像1体の造立や法華経三部の書写など、亡霊救済の追善供養を営ませた話です。

● そのなかで、女性が生前祇陀林寺の地藏講に1・2度参詣した功德で、地藏菩薩が毎日地獄にやって来て、早朝、日中、日没の3回、自分の身代わりとなって苦しみを受けてくれることも併記しています。

[42]



- なお、この地蔵代受苦説話は中世の時代には「地蔵菩薩靈験記絵巻」として絵画化されました。
- 現在、アメリカのフリア美術館本(13世紀中頃成立)が現存しており、同本には「地蔵講結縁の人にかはりて苦を受給事」と題し、立山地獄に堕ちた女性の亡者の身代わりとなって責め苦を受ける地蔵菩薩の姿が描かれています。

[43]



[44]



[45]

(4)山は、修行によって生まれかわる場所

- ・ 立ち入ってはいけないとされてきた霊山が、修行の場所として開かれていきました。
- ・ 山で修行する人々は神道や密教などの教えや考えをとりいれて修験道(しゅげんどう)という修行の方法をととのえ、修験者または山伏(やまぶし)とよばれました。

[46]



[47]

- やがて、里の人も修験者の案内で霊山に登るようになりました。
- また、立山のほかにも全国各地に、一人前となるために山に登る風習がありました。  
(成人儀礼としての立山登山)
- しかし、女人禁制の時代、女性は山で修行ができませんでした。そんな女性のために立山の芦峯寺では、布橋灌頂会(布橋大灌頂)という修行(儀式)を行ったのです。  
(生まれ済まりの儀式)

[48]

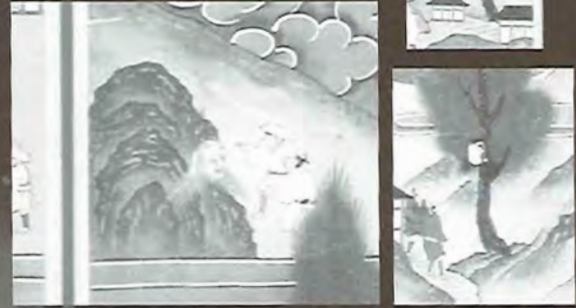


☆立山曼荼羅にみる不思議な生き物☆

- 江戸時代の岩嶺寺や芦嶺寺の宗徒(お坊さん)たちは、この立山曼荼羅を立山信仰を絵解きによって布教させるための絵と考えていたと思われます。
- 特に、芦嶺寺の宿坊の宗徒は、毎年冬季に立山信仰を全国各地に布教をしてまわりました。その際、この曼荼羅を絵解きし、男性には夏の立山まいりを、女性には布橋灌頂会の参加をすすめました。

[49]

木や石になった女性たち  
34・35・36



[50]

牛や馬になった男たち  
18・19



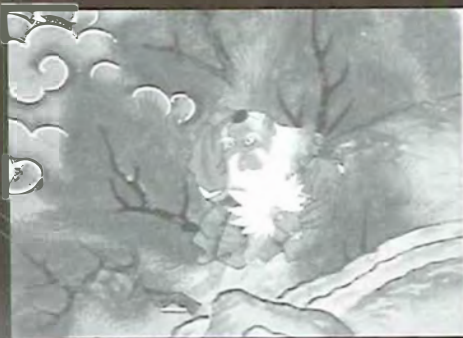
[51]

人をさらう鬼 (2の下)



[52]

天狗 39



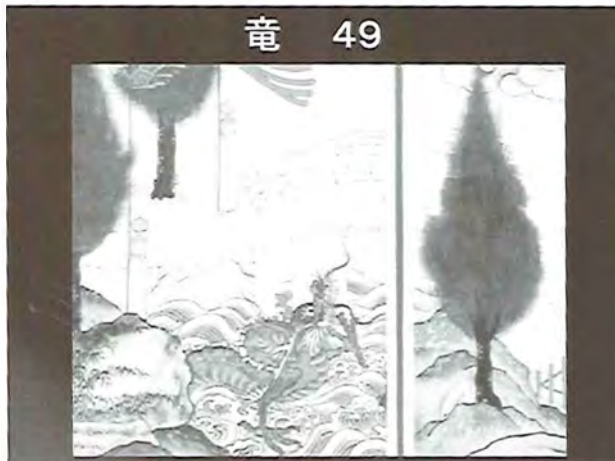
[53]

うば尊  
14



50のおばあさんは  
尊衣婆といい、  
うば尊ではありません。

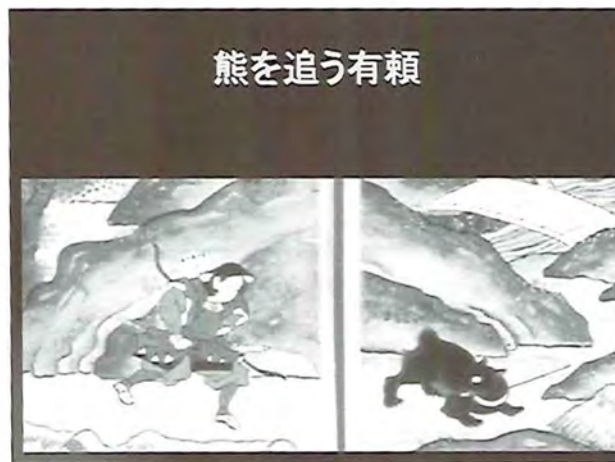
[54]



[55]



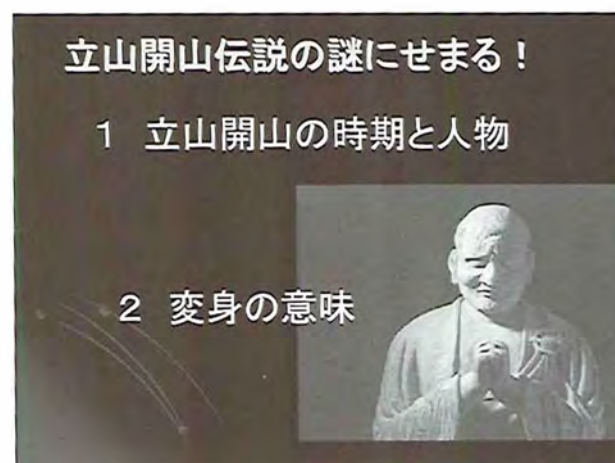
[56]



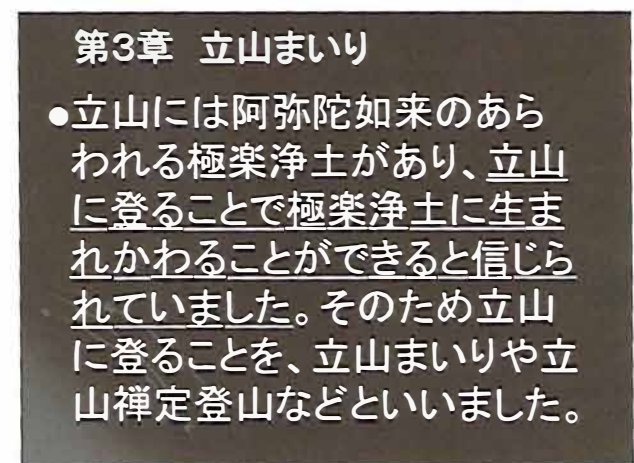
[57]



[58]



[59]



[60]





[61]

### まずは室堂まで

- 1 宿坊って何？
- 2 伏拝みでは何をしていますか？
- 3 弥陀ヶ原には田んぼが描かれていますが、実際はありません。何を田んぼのように描いたのでしょうか？
- 4 獅子が鼻への登りは、今は通る人は少ないのですが、昔はなぜわざわざここを通っていたのでしょうか？
- 5 室堂では、食事や布団をどうやったのでしょうか？

[62]

### 地獄谷めぐり(地獄めぐり)

- 1 地獄の王様であるえんま王は、何をしていますでしょうか？また王の前にある鏡は？
- 2 鬼が行う罰は意外にも、人間がふだんしていることと同じです。たとえば？
- 3 日本では、地獄といえば熱いところと思われてきましたが、寒い地獄もありました。立山曼荼羅に描かれている寒い地獄は？
- 4 仏教では、生前の罪の程度により6つの世界に生まれかわるとされました。さて君はどこに生まれかわるだろうか？

[63]

### 六道

- 天道
- 人道
- 阿修羅道(戦いに苦しめられる)
- 畜生道(動物の世界)
- 餓鬼道
- 地獄道

[64]

### 立山めぐり

- 雄山 (3003m)  
下から順に一の越・二の越、三の越、四の越、五の越といって、それぞれに石仏がまつられたほらがおかれました。雄山は仏の体にたとえられ、ひざが一の越、腰が二の越、肩が三の越、首が四の越、頭が五の越にあたると考えられていました。雄山の頂上での御来光(日の出)はきっと感動的だったことでしょう。

[65]

- 浄土山(2831m)

浄土山は、阿弥陀如来が遠くにある極楽浄土からやって来て、姿を見せる山と信じられていました。実は、朝に雄山に登るため雄山から西方にある浄土山にブロッケン現象が見えることが多かったようです。昔の人はそれをご来迎とよんで感激したのでしょうか。

[66]

● 別山(2880m)  
 別山は、立山の本峰に対する別の峰という意味の名前で、昔は帝釈岳とよばれていました。「今昔物語集」には、えんま王よりもえらい帝釈天が、人々の善悪を調べるところと書かれています。地獄谷の正面にあって帝釈天が地獄におちた者を救う山と考えられていたのでしょう。  
 劔岳は登ってはいけない山ですが、聖なる山としておがむ山だったのです。この別山は劔岳を拜む場所とされました。

[67]



● 今からちょうど100年前に劔岳で発見された錫杖頭と鉄剣

[68]

**劔岳**  
 ● 今からちょうど百年前の明治40(1907)年7月、陸軍参謀本部陸地測量部の柴崎芳太郎測量官たちが、ついに登ってはいけない山であった劔岳の登頂に成功しました。しかし、三等三角点の設置は断念。  
 2998m(1907)→3003m(1930)  
 →2998m(1968)  
 →2004年、ついに三角点を設置 2999mに

[69]



[70]



[71]

**第4章「成人儀礼としての立山登山」**

- 1 大人になることは、生まれかわること
- 2 登山の意義  
 山は、神霊がやどり、人間の靈魂を再生させるにふさわしい場所だと考えられた。
- 3 男子成人儀礼としての立山登山  
 富山では、早くて15歳、おそくとも18歳までに立山参りをすべきだといわれてきました。
- 4 そして今

[72]



### 小学校登山の開始

- 明治45(1912)年の東水橋尋常高等小学校で行われた立山登山が県下で最初とされています。
- 継続的に立山登山を行うようになった一番はやい例は、大正11年(1922)からの富山市立八人町尋常高等小学校のようです。ただし、参加者は身体強健なごく一部の児童だけ。

[73]

東水橋尋常高等小学校の立山登山の写真(明治45年)1912年



[74]

### 女学校登山

- 女学校登山は、大正8(1919)年の県立富山高等女学校と富山女子師範学校の合同登山に始まりました。しかし、このときものすごい雷雨にあい、新聞に「神の怒りに触れた女学生の登山隊」とたたかれたそうです。
- 大正14(1925)年から、県立高岡高等女学校で、立山登山が行われるようになりました。

[75]

昭和7年の県立高岡高等女学校の立山登山



[76]

おわり

[77]

## 4. 考 察

「総合的な学習の時間」や「立山登山」の事前学習用の教材として、なるべくわかりやすい解説及び授業になるよう工夫したが、実際にはまだ多くの課題があることがわかった。

「導入」の部分では、立山に登った事のない子供達に対してもそのかたちがイメージできるように、なるべく最近の現地の写真を多く活用することに心がけた。また、平成19年（2007）は、陸軍参謀本部陸地測量部（現 国土地理院）の柴崎芳太郎隊が剣岳に初登頂してからちょうど100周年でもあるので、実際に設置されている三角点の写真を提示し、私達が何気なく使っている地図が実は先人達の大変な努力の成果であることにも気づかせることに留意した。ただ写真については、立山のどの部分を提示すれば最も効果的な「導入」となるかの判断が大変困難であった。博物館が保管する立山の实景写真は、開館当初のやや古いものが多く、今現在の立山のイメージづくりには適さないものが多かった。子供達への教育普及を効果的なものにするためにも、博物館として絶えず最新の立山を撮り続ける必要があると考えられる。また、「地獄（地獄谷）」があったから立山は全国的にも大変著名な山でありえたことについても、地獄谷に代表されるような特異な景観が立山にあったからこそ立山の歴史と信仰があること、つまり富山の自然が土台となっていることを絶えず意識させることに留意した。何よりも立山に興味関心を持たせるために、「導入」の時間をやや多めに設定した。

次に「展開①」であるが、ここでは立山の事を中心としながらも、日本人にとって山とはどのような存在であったかを、万葉集や今昔物語集などを引用して説明した。特に万葉集では、万葉仮名による立山の賦を提示することで、当時立山は「多知夜麻（たちやま）」と呼ばれていたことに気づかせるよう留意した。パワーポイントによるスライドショーとはいえ、単調になってしまえば子供達の集中力がとぎれるため、時にはわ

ざと難解な万葉仮名を読ませたり、今昔物語集の一文を提示したりするなどの工夫も必要と思われた。小学校において、今昔物語集はあまり馴染みのあるものではないが、万葉集については高岡市立伏木小学校のように、多くの子供達が空覚えしているような学校もあるくらいで、取り組みやすい素材であろう。万葉集には、歌を詠んだ日付もあるので、詠われた季節や当時の暦の話にも発展させることができた。

「作業」については、立山曼荼羅の実物大のビニール製レプリカを教材として活用したが、曼荼羅に描かれた不思議な生き物や立山地獄の壮絶な描写に多くの子供達が興味関心を引かれたようであった。立山曼荼羅は学習教材として、大変ユニークな素材であり、今後もぜひ活用して行きたいと考えている。

「展開②」の立山開山伝説については、立山曼荼羅レプリカを使った「絵解き」と「探検！立山曼荼羅」のDVD視聴という2つのパターンをそれぞれ試みた。絵解きの場合は、子供達の反応次第で内容を大きく発展させることも可能だったが、その一方でシナリオ通りに行かないことが多くあった。時間に余裕があれば、絵解きをやってから補完的にDVDを見せるなど両方を併用した方が適切であろう。なお、展開②の中の「立山開山伝説の謎にせまる！」の部分は、内容的には少し高度であり、ある程度日本史の知識を持った中高生向けに実施した方が適切と思われる。

「展開③」では、あくまでも昔の人が考えたことであることを前提に、江戸時代の登山（登拝）の様子や地獄めぐり、山々の名称について説明した。ここでも、地獄めぐりの説明が、子供達の興味関心を引いた。このような学習の場で子供達に興味関心を持たせることは確かに大切なことではあるが、単なる興味本位にならないよう担当者が工夫する必要がある。特に立山地獄については、道徳の授業としても活用できる大きなテーマであるが、取り扱いについては検討が必要であろう。



最後の「まとめ」では、立山登山の意義を自分なりに考える時間とした。かつて、大人になるための一つの試練として若者に登山をさせる風習が全国にあったこと、また私達が住むこの富山県では昔から立山に登ってはじめて大人として認められていたことなどを話しながら、立山に登ることの意義を考えさせた。

なお、「おまけ」の部分は、時間が余った場合に備えて用意したものである。県下で最初に実施された学校登山といわれている明治45（1912）年の東水橋尋常高等小学校の立山登山の様子や昭和初期の女学校登

山の写真を提示した。昔は引率の先生はスーツにネクタイ、女子生徒も制服にスカートと地下足袋で立山に登っており、今とは随分スタイルが違うことに、子供達も驚いていた。写真に写る昔の生徒達のさわやかな笑顔から立山登山の素晴らしさを少しでも感じてくれたのであれば講座の担当者としても幸いである。

以上、「総合的な学習の時間」及び「立山登山」の事前学習としての一つの試みとしての「立山の歴史」である。与えられた時間により、内容に若干の違いはあるが、概ね上記の指導計画に基づいて実施した。

## 5. おわりに

博物館と学校教育との連携は、立山博物館が開館した平成3年以来、既出の研究紀要にあるように、様々なかたちで実施してきた。ジュニアミュージアム講座（小中学校対象）やミュージアム教育講演会（高校対象）の実施、ジュニアワークシート（小中学校）の利用、ジュニアガイドブック（小中高等学校）の利用、見学の手引き（「たてはく」へ行こう）の作成及び配布などきめの細かい教育普及活動を継続して実施しており、これらの活動がいわゆる「生きる力」の一つである、「自ら課題を見つけ、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」を身につける事に大いに役立っていると考えられる。

ただ、上記のような教育普及活動が広範囲に浸透してきたこともあり、平成17、18年度においては、逆に学校側からの出前講座の申し込みがほとんどないと

いう状況になった。平成19年度になって、ようやく出前講座の申し込みがあったのである。

「総合的な学習の時間」が全国の小中高等学校で工夫されている中、立山博物館としてもぜひその取り組みに関わることができないか検討を重ねてきた。今回作成した「総合的な学習の時間」用の教材「立山の歴史」は、構成・内容・程度とも検討すべき箇所がまだまだ多くあるが、最終的に博物館の職員でなく学校現場の教員が自由に授業等で利用できる教材になればと考えている。そのためにも、今後も学校との連携を密に取り、より完成度の高い教材になるよう検討していきたい。また、出前講座についても申し込みをただ待つのではなく、博物館側から積極的に問いかける必要があるだろう。

## <参考文献及び論文>

廣瀬誠『立山のいぶき－万葉集から近代登山事始めまで』（シー・エー・ピー、1992年）  
青木正邦「博物館と学校教育との連携」－ジュニアワークシートを利用した小学校の実践を通して－（富山県〔立山博物館〕研究紀要第2号所収、1995年）  
青木正邦「博物館と学校教育との連携Ⅱ」－ジュニア

ミュージアム講座を利用した小学校の実践を通して－（富山県〔立山博物館〕研究紀要第3号所収、1996年）

青木正邦「博物館の現状と課題」－立山博物館の現状と課題－（富山県〔立山博物館〕研究紀要第4号所収、1997年）

- 青木正邦「博物館と学校教育との連携Ⅲ」－『見学の  
手引き』作成を通して－（富山県 [立山博物館]  
研究紀要第5号所収、1998年）
- 北俊夫・埼玉県博学連携推進研究会『博物館と結ぶ新  
しい社会科授業づくり』（明治図書、2001年）
- 平成14年度春季特別企画展解説図録『探検！立山曼  
荼羅－親子で楽しむ立山開山伝説－』（富山県  
[立山博物館]、2002年）
- 平成17年度特別企画展解説図録『立山曼荼羅 物語  
の空間』（富山県 [立山博物館]、2005年）
- 福江充『立山曼荼羅－絵解きと信仰の世界』（法蔵館、  
2005年）
- 平成17年度特別企画展解説図録『ちょっと昔の学校  
登山－写真でたどる大正・昭和期の立山登山－』（  
富山県 [立山博物館]、2005年）